

## 令和6年度 夏季授業力向上研修

### 講演内容

- ①算数のステージごとの教材
- ②ステージごとのICTの活用
- ③絵合わせカード作り実習

### 講師

合同会社学習室クレメント 富岡 康一先生

### 参加者

本校全教員

### 日時・場所

令和6年7月24日 13:15~17:00

本校体育館にて

本校におきましては教員の資質・能力向上に向けて夏季研修を複数回実施しております。今回は本校外部専門員の富岡先生を講師に迎え、算数・数学とICTの活用について3項目についてお話をいただいたり、教材作成実習をしたりしました。

まず全校研修で算数・数学の導入期について。

- ・数の概念について
- ・算数と日常生活の関連について
- ・太田ステージ評価に基づいた細分化した学習過程について

これらについて実践と共に、今どの段階の学習に取り組み、どのような指導内容が適切であるのかを明示しながら進めていただいた研修会でしたので、教員一同普段関わっている子供たちの表情や様子を思い浮かべながら研修を受けました。

様々な活動は明示されていましたが、その中で、最後に強く先生がお話しされていたことが印象深かったです。

「子供達との学習は、活動を通して達成感を与えるものであり、できる教材を使って“できた”を積み上げられるようにしていくことが大切である。たくさんの達成感が自己肯定感につながっていき、自己肯定感が育った子は自信をもって活動に取り組めるようになる。」

上記を踏まえ、本校の教員が、子ども達の学習においてたくさんの“できた”が引き出せる授業づくりを2学期以降展開していきます。



次に本校でも使用しているデジタル活用端末についてです。

実際の授業での活用について太田ステージ評価と共にどのような活動が望ましいのかや、タブレットの有用性についてと共に、タブレットを現代の紙のように使う場合の操作についてお話しいただきました。

デジタル活用端末を円滑に使うには、操作方法を児童・生徒に教えていくことが必要であり、その指導場を設定していくことの大切さについてのお話がありました。

余暇の充実とともに、タブレットだからこそ分かり易く子供たちに提示できる教材などを使っていくことが良いのではともお話しされていました。

タブレットを使った学習が充実している今、学校でしかできない所にも着目し、対面だからできること、集団だからできることを大切にしながらバランスよくデジタル活用端末を本校においても使用していきます。

以上を全校研修で学びました。

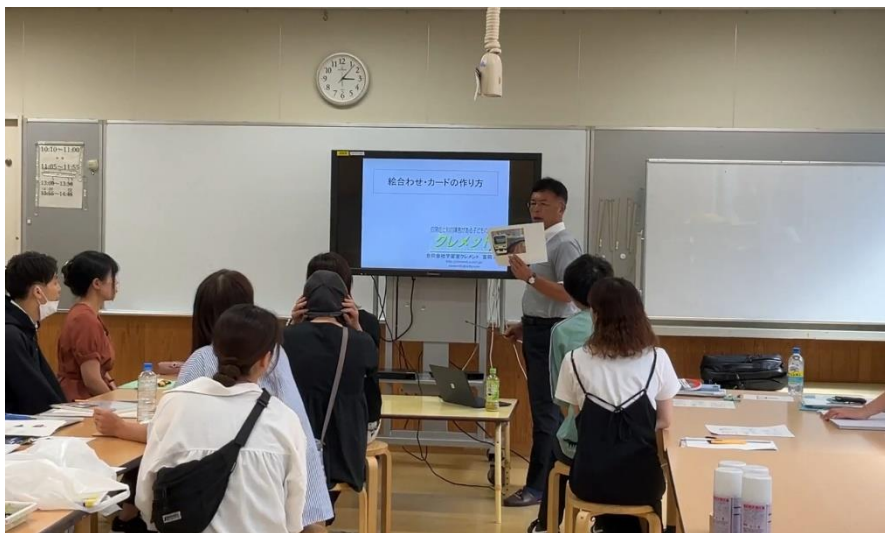
そのあとに若手の教師や教材作りに興味のある教師が集まり、教材作成講習会を行いました。

事前に富岡先生より、作成見本を送っていただき、どのような教材があるか確認し、自分の担当する子ども達をイメージしながら作りたい教具や、材料の準備を行いました。

今はラミネーターフィルムなど有用性の高い教具もありますが、以前より特別支援教育の中で使われている板目紙やパネルボード、Bコートを使ったカード作りを教えてくださいました。

力の入れ具合や手首の動かし方など、そこか！というところを惜しみなく教えていただき、多くの教員が次々に教具を作り上げていくことができました。

教具を作りながらどのように子供たちにアプローチするのか、どの段階で実践するのか、課題を進めるべきか、戻すべきかなど一つ一つのケースの相談にも丁寧に答えていただき、学びの多い研修会を実施することができました。



2学期に向けて教員一同、パワーアップできるよう日々研鑽してまいります。

(外部専門員担当：伊澤 裕美)